

ナムコ知新 番外編

業務用ゲームの新作発表会であるアミューズメントマンショー（主催：JAMMA）が、9月21日～23日に行われた。今年が20世紀最後のショーであることを記念して主催者テーマゾーンでは、かつて一世を風靡した名作ゲームマシンが展示された。ナムコからもう一時代を築き上げた5タイトルを展示。今回はその名作を紹介しよう。



ジュークボックスから80年代までの名作が集合。



懐かしいゲームに思わず熱中してしまう姿が多く見られた。

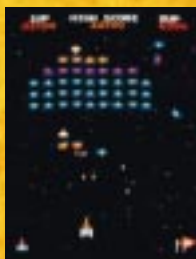


1979
year

Galaxian®

ギャラクシアン

ギャラクシシップを操り、エイリアンを撃ち落としていくシューティングゲーム。キャラクターと背景を重ね合わせた多重スクロールを取り入れ、宇宙空間を疾走しているかのような演出に成功した。そしてエイリアンは意志があるかのように複雑な軌道を描きながら飛来・攻撃してくる。エイリアンは画面上部で編隊を組んでいる時より飛来中の方が高得点のため、一機一機撃ち落としていく緊張感が高得点を狙うプレイヤーを虜にした。



星が流れる美しい画面に見とれた人も多いのでは!?



当時は立ってプレイするアップライト筐体が多かった。

1980
year

PAC-MAN®

パックマン

食べかけのピザからキャラクターデザインが閃いたという逸話をもつのが、ご存知『パックマン』。モンスターをかわしつつフィールドに配置されたドット(えさ)を、ひたすら食べるというシンプルながらゲーム内容が幅広い層に支持され、その活躍は国境をも越え世界的に大ヒットした。米国ではTVアニメやレコードがヒットし、パックマンフィーバーと呼ばれた。2000年で21歳になったパックマンだが、その活躍はこれからも続くだろう。



ナムコの看板キャラクター・パックマン。



簡単操作ながらも奥の深い内容が世界中を虜にした。

1983
year

XEVIOUS®

ゼビウス

美しいグラフィックとスムーズな画面スクロール、そして神秘的なサウンドと、これまでにないオリティで登場したのが『ゼビウス』だ。攻撃に対地・対空2ボタンを駆使したり、自機の何倍もある巨大な敵や隠れキャラの存在など、今日のシューティングゲームの基となった。また、パックボーンには緻密なSFストーリーがあり、ゲームに世界観があることをプレイヤーに認識させた作品でもある。各キャラクターにはイメージイラストもあり、プレイヤーの操るソルバルウのイラストはノワーズの前身であるNG創刊号の表紙を飾った。



もはや伝説!? NG創刊号。



巨大な敵・アンドアジェネシスや破壊できない壁・バキュラなどインパクトのある敵が次々出現する。

1984
year

THE TOWER OF DRUAGA®

ドルアーガの塔

RPG要素を盛り込んだアクションゲーム。プレイヤーは黄金の騎士ギルを操作し、ドルアーガによって塔の最上階に捕らわれた巫女カイの救出を目指す。漠然とプレイしただけでは全60階の攻略は非常に困難で、クリアするには各階に隠された宝を集めていく必要がある。発売当時、この謎を解き明かすため各地のプレイヤーが店舗を越えて情報を交換しあい、打倒ドルアーガ60階クリアを目指したと言われている。



塔を徘徊するモンスターと戦い、宝を集めながら最上階を目指す。イラストと模型を合成したポスターも話題になった。